

3年ぶりの来日研修に向けた入念な準備により、質の高い研修に貢献 2022年度 JICA「地域開発計画管理」コース

北海道開発局は、10月19日から11月21日まで2022年度JICA課題別研修「地域開発計画管理」コースに協力しました。3年ぶりの来日研修には、4か国から5名の国の行政官等が参加しました（2020、2021年度はコロナ禍によりオンライン研修を実施）。

来日研修の意義を高めるため、研修全体における現地見学の位置づけを意識した内容としました。結果として、国・自治体・企業の適切な役割分担及び連携が、地域開発政策の展開において重要であることが研修員に十分に理解されるなど、充実した研修となり、研修員の能力の向上に寄与しました。

北海道開発局は、石塚局長が研修員の表敬訪問に対する歓迎の意を表した他、北海道開発政策に関する講義、豊平川上流のダムやウポポイの見学に対する協力を行いました。

■研修名：2022年度課題別研修「地域開発計画管理研修」コース

■研修期間：2022年（令和4年）10月19日～11月21日

■協力内容：北海道開発局長表敬

講義（北海道開発の経緯・仕組み、地域開発による世界各国共通の課題に対するアプローチ）

現地見学（定山溪/豊平峡ダム、ウポポイ）等

■目的：各国・地域の実情に応じた地域開発の仕組みが帰国研修員により立案・実行されることで、地域開発による国・地域の課題解決に資すること

■参加者：日本側 受託機関 一般財団法人 日本国際協力センター（JICE）

コースリーダー 東海大学国際文化学部長 平木 隆之 教授

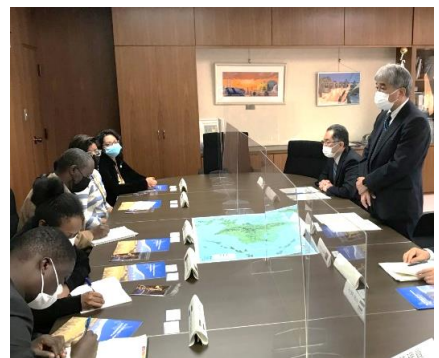
：研修員 ドミニカ共和国、ナイジェリア、パプアニューギニア、シエラレオネ 4カ国5名（国の課長級行政官及び団体職員）

■研修概要

（1）北海道開発局長表敬訪問

10月31日、研修員5名が石塚北海道開発局長を表敬訪問しました。石塚局長は、歓迎の挨拶の中で、研修講義しながら、北海道開発行政の歴史及び仕組みの紹介等を行いました。これに対し、研修員代表から本研修に向けた抱負が語られました。

研修員の自己紹介後の懇談では、石塚局長による説明に研修員は熱心に耳を傾け、メモを取るなど、非常に充実した表敬訪問になりました。記念品として石塚局長から、当局の事業に関連する景観を紹介している絵葉書が贈られました。



表敬を歓迎する石塚北海道開発局長（右手前）



表敬訪問の最後に石塚局長（後列中央）と一緒に記念撮影

(2) 北海道開発局国際室による講義の様子

当局国際室は、11月1日に「北海道開発の経緯・仕組み」、11月2日に「地域開発による世界各国共通の課題に対するアプローチ」の講義を行いました。

北海道開発の経緯・仕組みの講義では、国が主導してきた北海道開発政策が、国・北海道・基礎自治体・企業の連携・協力体制により成果を実現してきた特徴がある旨を説明しました。また、研修員が議論しやすいよう適宜問いかけを行う講義スタイルとし、研修員の理解度を確認しながら講義を進めました。

11月2日の講義では、気候変動による自然災害や新型コロナウイルス等世界各国共通の課題に対して、地域開発政策が果たす役割として、生活、経済活動の基礎である基幹的なインフラの重要性、民間事業者の活動等に基幹的なインフラが不可欠であること等を説明しました。



ディスカッションの様子

(3) 現地見学

3年ぶりの来日研修を有意義なものとするべく、座学による講義と現地見学の関連性を意識し、講義内容の理解が深まるよう工夫しました。

10月31日は、豊平川上流の定山溪ダム／豊平峡ダムを見学しました。当局札幌開発建設部豊平川ダム統合管理事務所長から、両ダムの建設によって、豊平川流域の洪水被害対策に効果を発揮したこと、治水・利水・発電により札幌市発展の基礎を築いた旨の説明があり、ダム見学において、国が基幹的なインフラをしっかりと整備することにより、基礎自治体・民間の活動が促進されるという地域開発事例を学びました。

11月17日には、第8期北海道総合開発計画に謳われているアイヌ文化の復興等に関するナショナルセンターであるウポポイ（民族共生象徴空間）を訪問しました。地域開発とダイバーシティの観点から、国立アイヌ民族博物館の見学、アイヌ舞踊鑑賞、アイヌ語学習、ムックリ演奏体験及びアイヌ文様の刺繍体験に参加するなど、理解を深めました。思い出深い一日になったと感想が聞かれました。

その他の見学先についても、地域開発政策の実行性を高めるため、国、自治体の政策と民間事業者の活動の関連性についての理解が深まるような事例を当局が提案し、赤平市の産業政策に関する座学、施設見学、民間事業者への訪問、石狩市のエネルギー・産業政策、物流拠点の役割を担う港湾施設等の管理者及び民間事業者を訪問しました。



豊平峡ダム施設見学



国立アイヌ民族博物館内の見学



ムックリの演奏体験

(4) 閉講式

11月21日に無事閉講式を迎え研修員に修了証書が授与されました。当局からは渡部国際室長が、帰国後の地域開発の取組に対するエールを送る閉講の挨拶を行いました。研修員代表からは、北海道で学んだことを帰国後に活かしたい旨の決意表明と研修受講への謝意を表す挨拶がありました。

3年ぶりの訪日研修となった本研修では、地域開発政策の推進において、国・自治体・民間事業者等の適切な役割分担と連携・協力体制が不可欠であるという基本に沿って、現地を実際に見学することで理解を深めることができるよう、現地見学、座学、議論を有機的に連携させることで、研修全体の質の向上を図りました。結果として、効果的な地域開発政策の推進に関する研修員の理解が深まり、能力向上に資する結果が得られました。研修員の帰国後の努力によって、参加国の輝かしい未来が形作られることを願っております。



渡部国際室長による閉講の挨拶



閉講式の記念撮影